



NIPPON GOOD PARTS NGP NEWS

2014 No.274

1

月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報



NGP日本自動車リサイクル
事業協同組合
理事長
長谷川利彦

平成26年 理事長年頭のご挨拶

品質を通じてお客様との 強い信頼関係を構築します！ 自動車整備事業者様との 真のパートナーシップの 確立を目指します

明けましておめでとうございます。年頭にあたり、新年のお慶びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、日本経済再生に向け、安倍晋三政権の経済政策「アベノミクス」が本格的に動き出した1年でした。復興施策の着実な推進等の影響で、円安・株高に転じ、輸出企業を中心に業績が好転し、消費活動が活発となり回復基調の兆しが見えています。

自動車関連業界では、国内新車販売台数が5年振りに500万台を上回ることとなりましたが、軽自動車販売台数が37.8%と過去最高を記録するなど、スモールカー時代の突入を示唆しています。

また、自動車整備総売り上げは、前年対比マイナス5.4%の5兆2,982億円に留まり、引き続き整備にかかる費用の冷え込みによる影響、維持費の安価な軽・小型自動車の増加などが、整備売上減少に影響を及ぼしている」と推察されています。

さらに今年は、2014年問題のほか、消費増税後の消費の落ち込み、「TPP」「原発」「憲法改正」などで国内景気動向が揺れ動くことが予測され、自動車整備業界にとっては引続き予断を許さない年になると考えられます。

このような背景を踏まえ、昨年10月開催の第9回NGP定期総会で「継往開来」を基本指針として採択し、具体的には、次の課題を中心に組織活動に取り組みをしています。
①高年式車がなかなか市場に出回らないなど部品取車両の仕入れ状況が厳しく、部品生産点数が低調推移しているが、市場ニーズとア

ンマッチにならないよう低年式車両にも目を向けて部品生産向上への創意工夫をする。

②自動車保険等級制度改定による自費修理の増加で、リユース部品利用が進むと予測していたが、まだまだ認知度不足から利用拡大に至らず損害保険会社との連携施策など、リユース部品利用啓発にしっかりと取り組む。

③海外バイヤーの積極的な購買が部品取り車両の仕入れ額高騰に影響を及ぼしていることを見逃さず、一般ユーザーからの仕入れ強化はもとより、自動車整備事業者様からの仕入れ在庫拡大に向け、地域の実情に合わせた新スキームの具体的な施策を検討する。

④物流コストが高騰しているなか、地産地消を考慮にいれ、遠方への販売に伴う輸送コスト上昇を抑え、出来る限り周辺地域への販売拡大を目指す。

⑤各支部で、地域のマーケットバランスを検討しながら、正組合員の新規加盟を展開し、組織全体の部品生産力の強化に結び付ける。

これらは、単に我々NGP組織の事業拡大を目的とするのではなく、自動車整備事業者様との真のパートナーシップを確立するために、自動車整備事業者様向けのビジネス支援として、強い信頼関係の構築に結び付けなければならないと考えています。

昨年より、全国テレビCM放映などを通じて展開している「NGPエコひろば」の顧客紹介運動は、飛躍的な問い合わせ件数の増加には至らないものの、着実に一般ユーザーへの認知向上に寄与し、事故車整備以外の車検

見積り、故障修理、中古車購入など、幅広い問い合わせが徐々にではありますが多くなっています。今年も引き続き「NGPエコひろば」の広報戦術を進歩させ、登録工場の皆様へ1件でも多くの顧客を紹介します。

さらには、部品取り車両仕入れ強化策として「新・廃車王」を展開いたします。一般ユーザーに限らず、自動車整備事業者様からの問い合わせにも目を向け、仕入れた車両から1点でも多くの部品生産を行い、在庫・供給力向上に努力し、皆様との協力関係のもと、リユース部品利用促進に努めてまいります。

物流コスト対策では、バンパー・ドアパネル・エンジンのリターナブル梱包資材の普及拡大を、梱包コストの低減、安全輸送の向上及び環境貢献の一貫として位置付け、継続的な取組を行ってまいります。

また、次世代自動車の目覚ましい技術革新が進むなか、自動車整備事業者様も修理技術の高度化が必要不可欠となることに並行して、我々リユース部品業者も、次世代自動車のリユース部品生産ノウハウや解体処理時のリチウムイオン電池、レアメタル、レアアースなどを回収するスキームを研究しなければなりません。そのためこれからは、次世代自動車に関する技術情報等を共有化するために、自動車整備事業者様とリユース部品業者が情報連携する仕組みの構築も必要です。提供する側、利用する側の垣根を取り外し情報共有することで、一般ユーザーに対し信頼性の高い修理サービスを提供できるよう、相互協力させていただきたいと考えております。

NGP組合員各社は、各地域において信頼され、選ばれるNGPブランドのリユース部品供給を通じて、お客様利益と共存する満足度の高いサービス提供にチャレンジしてまいります。引き続き関係各位の皆様のご理解ご支援をお願い申し上げるとともに、皆様のご検証とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

「エコプロダクツ2013」に8年連続で単独出展

環境に優しい自動車整備・修理と共に
「エコひろば」と新生「廃車王」をアピールNGP 協同組合・環境委員会の
藤原庸正委員長

NGP協同組合は12月12～14日までの3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催された、“環境”をテーマにした日本最大級の展示会「エコプロダクツ2013」に出展しました。同展示会への単独出展は、初出展の第8回より数えて8年連続になります。今回は東6ホールの入口にほど近く、メインの通路に面している絶好の位置にブースを構えました。

受付では部品取り車両仕入れ強化のため一新された、廃車買い取りサイト「廃車王」(<http://www.haishaou.com/>)の、エジプトのファラオ王をモチーフにしたキャラクターと、NGPのリサイクル部品を積極的に取り扱う整備・修理工場を自動車ユーザーに紹介する「NGPエコひろば」(<http://www.eco-hiroba.net/>)のCMでおなじみカンニ

ング竹山さん、野村将希さん、ダンディ坂野さんのポールサインが目を引きまします。そして「廃車王」ロゴ入りジャンパーを着たスタッフが、チラシを入れたピンク色のエコバッグを配りながら来場者を出迎えました。

メインステージでは環境にやさしい自動車リサイクルに関する紙芝居を、昨年に続けて開催しています。プロのナレーターによるわかりやすい説明に、多くの小中学生が集まり熱心に聞き入っていました。

このほか、自動車のリユース部品展示コーナー、被災地支援コーナーも昨年に続き設置しました。リユース部品展示コーナーでは、ドアパネルやフェンダー、ホイール、ランプ類など外装部品のほか、エンジン補機類やダンパーなど機能系部品も実物を数多く用意しました。さらに新品部品とリユース部品の価

格、CO2削減量も明記して、環境にもお財布にもやさしいことが一目でわかるよう工夫したことで、NGPのリユース部品に高い関心を持っていただくことができました。

フィリピン台風義援のための募金に協力してくれた人へエンブレムをプレゼントする被災地支援コーナーには、国産車を中心とした新旧様々な車種のものがあり、小さなお子さんから大人のクルマ好きまで、お宝を発掘するような楽しさでお目当てのエンブレムを探していたようです。

今回のエコプロダクツ2013が、一般の自動車ユーザーに新しい「廃車王」をアピールする初めての場となりましたが、NGP協同組合の藤原庸正・環境委員会委員長は、「一般の自動車ユーザーにもっと覚えてもらえるよう、名称も従来の『廃車王くるマック』から『廃車王』へと、よりわかりやすいものにしました。一般の自動車ユーザーは長年乗り続けた車両を手放す際もディーラーに任せがちですが、『廃車王』の存在を知っていただき、将来愛車を手放す際に『廃車王』の看板を掲げるNGP組合員を車両売却先の候補に入れてもらえるよう、2月からスタートする全国ラジオCM放送などの宣伝活動を積極的に展開して参ります」と、同展示会で「廃車王」をお披露目した狙いと今後の意気込みを話しています。



外装から機能系まで様々な“環境とおサイフに優しい”リユース部品を展示



募金すればエンブレムがもらえる「被災地支援コーナー」はクルマ好きに大好評

消費税増税に伴う自動車諸税改正の骨子まとまる

予測が難しい、二種類の複雑な税制改正が自動車業界に及ぼす影響とは

今年4月から、消費税が3%上昇して8%に増税されますが、これに伴う自動車諸税の改正案が、このほど与党・自由民主党および公明党がまとめた「平成26年度税制改正大綱」のなかで発表されました。

骨格となる取得税は登録車が2%、軽自動車が1%引き下げられ、それぞれ3%と2%になりました。さらに、エコカー減税が拡充されることになっています。重量税については古い車（購入後13年超18年未満）は上がる一方、ハイブリッドカーなどエコカーの優遇措置は拡大されます。自家用の軽自動車税の場合、現行から1.5倍の年間10,800円に、事業用乗用車は1,100円増の年6,600円、貨物車は800円増の年3,800円に引き上げられます。

つまるところ、これまで登録車との格差が大きすぎると指摘されていた軽自動車税を増大させることが、今回の目玉となったようです。来年4月以降に軽自動車を新規購入するユーザーにとって負担が増加する結果となってしまう。

言うまでもありませんが軽自動車は、公共交通事情の悪い地方にとっては通勤、買い物、そして通院などに日常生活を営む上で欠かすことのできない移動手段となっています。複数の軽自動車を所有している家庭も多く、消費税増税後はその影響が重くのしかかりそうです。

もともと、取得税と消費税は二重課税です。重量税やガソリンなどにかかる揮発油税といった自動車ユーザーが負担する税が欧米諸国と比べて重すぎるため、これまで自動車関連団体はこぞって減税を訴えてきていました。

ですが結局のところ、新年度の与党税制改正大綱は、企業への優遇を進める一方で家計の負担増を強いる内容になってしまっていま

す。特に軽自動車ユーザーへの増税は、大都市と地方の格差助長にも繋がってくると表現しても過言ではありません。

率直に言って今回の改正内容は複雑で、しかもエコカー減税の具体的な数値など一部についての詳細が示されていません。細部については決めきれず今後固めていくという、料理に例えれば生煮え状態で提出されたと言ってもいいでしょう。

また、かねてより自動車業界からの強い改善要求は二重課税問題ですが、給油時のガソリン税に消費税がかけられている「タックス・オン・タックス」の是正については何ら言及されていません。論議する時間的な余裕がなかったのか、それとも論議する俎上にすら載せなかったのでしょうか。今後粘り強く是正への働きかけをし続ける必要があります。

ちなみに消費税が3%から5%に上がった1997年4月の新車販売台数は前年度比で14%マイナス、台数にして101万台減って628万台となっています。その内に含まれる軽自動車は前年度の181万台から161万

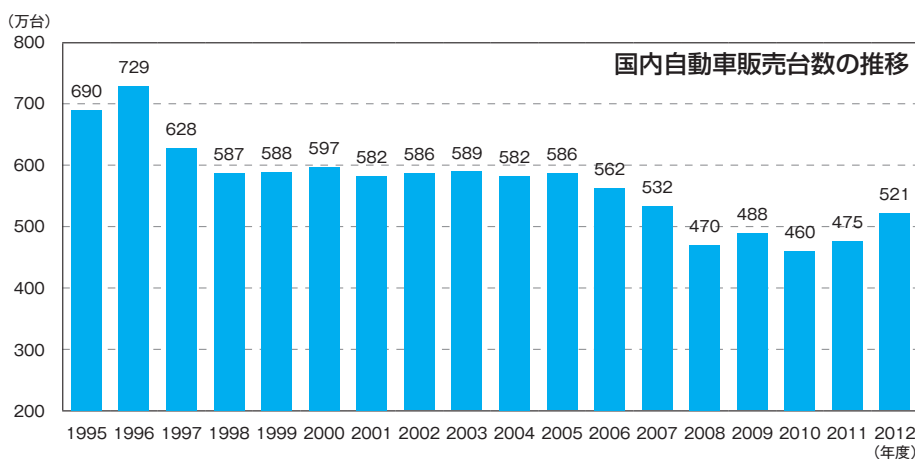
台へ、およそ11%の落ち込みを招きました。

今年度の新車販売台数は駆け込み効果も手伝って500万台突破が確実視されています。軽自動車はこの内、4割を超える200万台乗せとなり、スモールカー時代が鮮明となるでしょう。

自動車工業会がまとめたポスト増税での新車販売予測値は、2014年度で403万台と見込んでおり、500万台から97万台マイナスし率にして20%減となります。反動減が最大の場合として378万台を弾き出しており、減少率は実に25%のダウンです。

山高ければ谷深し。さて、来年度の新車販売動向にどのような影響が及んでいくのか、予断を許しません。そして、来年10月には消費税10%への再増税が待ち構えているのです。

ひとつ山を越えても、1年半の後にはまた、急峻な頂に挑戦しなければならない。今、我々の置かれているビジネス環境はこのように例えてもあながち的外れではありません。経営の舵取りが極めて難しい時代の幕開けとなります。

NGP 今月のCO₂削減量

リサイクル部品利用に伴う削減効果

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP 平成25年11月: 6,910t

NGP 1月からの累計: 72,939t (全12団体 1月からの累計) 130,557t



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を試算しました。

NGP 平成25年11月: 21.5t

NGP 1月からの累計: 262.6t

第1回管理者研修会開催

仕事を教えること、そして「標準化」の大切さを学ぶ

NGP組合員の次期社長、取締役、工場長クラスを対象にした新しい研修会「管理者研修会」の第1回が、12月5～7日の3日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で開催されました。

同研修会は、現役の社長および次期社長を対象にした「経営者研修会」と、マネージャークラスを対象にした「中級研修会」の間に位置するものです。今回はNGP組合員各社から18名が参加し、工場業務のコンプライアンス、廃掃法・自動車リサイクル法、管理帳票の活用法、仕事の教え方などについて学びました。

2日目に実施された仕事の教え方に関する研修では、「TWI」（Training Within Industry）と呼ばれる、カーメーカーや職業訓練校などで一般的な管理者向けの研修手法が用いられました。

その中で管理者の役割を、①目標の達成、②仕事の標準化とその向上、③部下の育成、にあると定義したうえで、受講生はまず、5

×6つの穴があるピンボードへ30本全てのピンを入れることに挑戦しました。それを通じて、最も効率良く短時間でピンを入れるための作業員およびピン・ピンボードの配置、視線と腕の動かし方などを標準化し、従業員に教える方法を考察しています。

また、実車のウィンカーランプを用いた組み付け作業の教え方実習もおこない、従業員の誰もが同じ手順を守り同じ品質で安全かつ迅速に作業できるようにするためには、標準化された作業を手順ごとに、①説明する、②やってみせ、やらせてみる、③教えた後を見る、ことが重要ということを知りました。

（有）榎並商会の榎並憲行さんは「これまで管理者は会社の誰よりも仕事をこなし、従業員の何倍も動き回るものだと考えていました。今後は自分で何でもするのではなく、個々の従業員に合った仕事を与え、早く安全な方法を教えて、会社に利益をもたらしていきます」と、管理者の役割について新たな気づきを得ています。



ストップウォッチでタイム計測しながらピン入れの作業効率を競い合う受講者たち

3日目の修了式では、「労務、安全、消防、公害対策を万全にして、どんなリスクが訪れても慌てず、隠さず、ごまかさない初動対応ができる管理者になります」（株）エコブリッジ、大宮茂雄さん、「部下の育成に必要な標準作業書を作成し、商品の品質と作業の安全性を確保したうえで、スムーズな業務ができる環境を作り、毎月コンスタントに1,000点以上生産できるようにします」（株）ラ・テール、改井敏晃さん」と、管理者としての決意を表明しました。

第6回青年部会開催

HV引き取りマニュアルの素案が完成、動画DVD化へ

NGP青年部会の第6回会合が12月20日、東京都港区のNGP本部で開催されました。今回は青年部会メンバー15人と小林信夫副理事長、組織指導委員会の佃正人委員長が出席し、各チームが活動の進捗報告と今後の計画に関する議論をおこないました。

昨年10月の第9回通常総会以降、2013年内の完成を目標として「ハイブリッド車（HV）引き取りマニュアル」の作成に青年部会全体で取り組んできており、その中心メンバーである「チーム3732（みなさんに）」のリーダー・太田道人青年部会長は、同マニ

アルをの素案を出席者全員に披露しました。

そして、数々のNGP組合員向け研修会を開催しているあいおいニッセイ同和自動車研究所の協力を求めるべく、同社埼玉センターを訪問した際「作業の一連の流れを動画で撮影しDVD化すれば、よりわかりやすいものになる」というアドバイスを得心を受け、1月中を目処に撮影し、2月頃までにDVDを完成させることを決定しています。

そのほか、「チーム チャレンジャー」は7月19日に新生「廃車王」のジャンパーを着て、富士山の清掃を実施します。「チーム ボ

ンBon」はHV引き取り・分解・生産マニュアル作りが一段落したのち、フロントマン接客コンテスト開催に向けた活動を再開する方針です。青年部会のさらなる活躍に今後とも期待下さい。



HV引き取りマニュアルの素案を出席者全員が共有

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
関西	吉村エコパーツ	電話番号	072-958-3454	25年12月1日
中四国	有限会社オートパーツ新居浜	移転	〒792-0893 愛媛県新居浜市多喜浜6丁目11-53 (電話・FAXに変更はありません)	25年12月11日

訃報

25年12月8日、有限会社東和（鳥取県東伯郡）春山貞珠代表取締役のご母堂、春山月連（はるやまつきれん）様のご逝去されました。享年90歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/